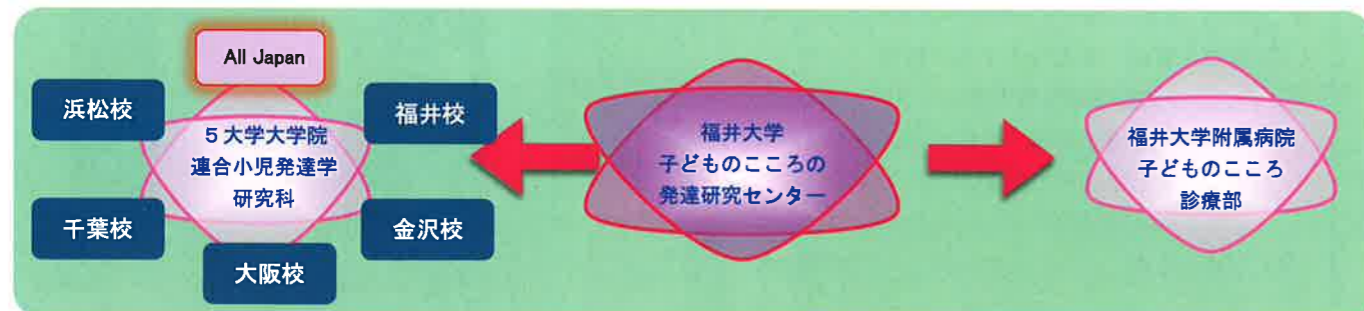


# 子どものこころ に取り組む

少子化が進む中、発達障害を含むこころの問題を抱える子どもが急増しています。未来を担う子ども達を守り育てて行くために、原因を科学的に究明し、新たな診断・治療法を開発すること、さらには子どもに様々な立場で関わりうる専門家の育成が急務とされています。

福井大学では、従来から「脳の発達の仕組み」の解明や「子どものこころ」の諸問題に取り組み、21世紀 COEプログラム「生体画像医学の統合研究プログラム」、「子どものこころの成長に関する基盤整備事業」、「脳機能ネットワークの形成・発達の解明とその活用事業」を実施してきました。平成21年9月に、大学院医学系研究科附属「子どもの発達研究センター」を設置し、平成24年4月からは、全学センターとして「子どものこころの発達研究センター」を設置しました。また、附属病院「子どものこころ診療部」では、子どもの問題行動への対処法や、子どもを取り巻く養育者に目を向けた研究を実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。さらに、All Japanの教育研究体制にて子どものこころの諸問題の解決に取り組むべく、平成24年度より、**大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学と福井大学**が連携し、学際的見地に立脚した大学院「**連合小児発達学研究科**」を開設し、全学をあげて子どものこころの諸問題の解明に取り組んでいます。



現場で指導できる  
専門家を育成



イメージング法を駆使した  
脳機能解明



子どものこころの問題の  
診断・治療



詳しくは [福井大学 子どものこころ](#)

## 社会と向き合う主な取組

### 1. 福井県「子どもの心の診療ネットワーク事業」

県健康福祉部障害福祉課と協働で、発達障害の疑いがもたれる児童に早期に対応できるよう、「子どもの心の診療医養成事業」として、福井県下で一般診療に携わる医師向けの研修講座を開始した。

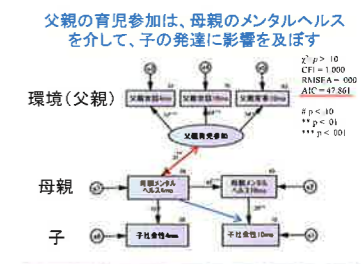


### 2. 当事者とその家族／支援者とともに当事者研究、きょうだい支援プログラムの実施

発達障害の専門有識者と連携しながら、当事者及びその家族と共に、当事者研究、個々のニーズに応じた多面的なきょうだい支援方法の開発を行う。

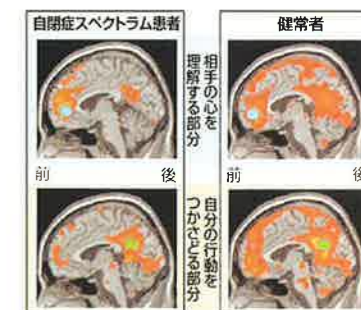
### 3. 福井県永平寺町との母子コホート研究

子どものこころの諸問題への包括的対応を、より地域に根ざした形で実施するため、地元の永平寺町を対象に、出生児全員を対象とする発達コホート研究を実施している。父親の育児参加は、母親のメンタルヘルスを介して、子の発達に影響を及ぼしている可能性があることなどを解明した。また、視線計測機を用いた検査により、自閉症児では非定型な視線パターンの背景として、オキシトシンの機能不全が存在する可能性を明らかにした。



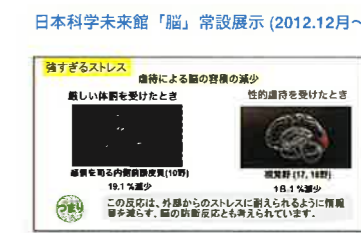
### 4. 子どものこころ・発達障害の脳画像研究

脳の成長を画像化する生体イメージングを進め、脳・神経回路網の発達を描出する画像解析法を開発し、脳発達の違いに基づく教育・療育の在り方を検討している。科学的知見に基づく、個性を生かした療育法の確立を目指す。自閉症やアスペルガー障害、広汎性発達障害の患者では、脳の特定部分の連携が健常者に比べて弱いことを解明し、障害の早期発見につながると期待されている。



### 5. 社会への情報発信

「子どものこころの発達研究センター」の研究活動から得られた知見について、多様な媒体を利用し、理解しやすい情報発信に取り組む。また、専門家を招いての講演会を開催している。



### 6. 子どものこころ・発達障害の基礎研究

こころの形成・発達の基盤である「脳の発達の仕組み」を分子・細胞レベルで解明することを目標に、こころの主な基盤と考えられている大脳皮質を中心に、その形成・発達の過程を明らかにする取り組みを継続している。嗅覚受容体を発現する神経軸索の投射位置が決定される仕組み、及び神経細胞内分子輸送を担う分子が自閉症の病態に関与する可能性を見出す。